

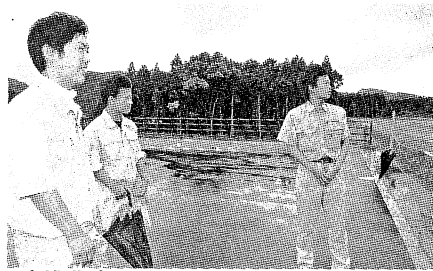
次世代に夢を

若者の育成に建設業が一役

生徒3人を受け入れ

唐津工業高校の職場体験

日本建設技術㈱



武雄北方インター工業団地でミラクルソル工法などを説明する内布さん(右)

日本建設技術㈱(本社・唐津市北波多、原裕社長)は4

16日の3日間、佐賀県立唐津工業高校の職場体験学習として、同校土木科2年生の小松建一郎くん、小野修誠くん、山下諒也くんの3人を受け入れた。同社では学校側からの要請で4年前から職場体験に協力している。

3日間の職場体験学習は同社の建設事業本部、コンサルタント事業本部、技術研究所が日替わりで担当。生徒たちは一般土木や地すべり対策、

法面などの工事、地質調査、測量設計などの建設コンサルタント業について業務内容や仕組みを学び、施工中の現場や施工が完了した施設を視察した。また、廃ガラスを再利用・再資源化したリサイクル製品「ミラクルソル」の製造工場も見学し、緑化や水質浄化などのミラクルソル工法について学んだ。

最終日の6日は技術研究所が担当し、同社がミラクルソル工法で施工した武雄北方インター工業団地(武雄市)内の法面や県立森林公園(佐賀市)にある「じゃぶじゃぶ池」を視察。地盤環境研究室の内布竜矢さんが施工概要や工法の特長を説明した。

職場体験の感想を聞くと、小松くんは「3日間でいろいろな現場や施設を見学した。ボーリングなどの業界用語を学べたし、岩を手作業で砕いている現場を見て驚いた。大変な現場もあったが、梅

雨の時期に一生懸命働いている人を見て感心した。将来は建設関連業に就きたい」と感想を語った。

小野くんは「建設現場を見て、人が安心して通れる道を作っていることに気づいた。3日間を通して、学校で学べないことを体験でき、将来についていろいろ考えた。小さい会社でも良いから建設関係で起業し、社長になりたい」とコメント。

職場体験を担当した内布さんは「入社して日が浅いので高校生に教えることで、自身自身の勉強にもなり、分かりやすく伝えることの難しさを再確認した。研究所で環境や新技術の開発に携わっていることもあり、弊社が力を入れている環境事業に関心をもってくれたら嬉しい。建設業を通じてさまざまな形で社会貢献できることを学生に伝えたかった」と述べた。